

わが町の図書館ならではの本

～北薩支部・宮之城町～

「紅いノート」「葉桜」 古木 鐵太郎著

古木鐵太郎という作家を知っていますか。

古木は明治32年、宮之城村屋地(現在はさつま町宮之城屋地)で生まれました。山本實彦さねひこが経営する「改造社」に入社し、編集担当者となります。志賀直哉・芥川龍之介など一流作家の原稿や人柄に触れる中で、文筆への憧れを抱くようになりました。28歳の時、改造社を退社し本格的に執筆を始めます。長男を赤痢で失った体験を綴った「子の死と別れた妻」は芥川賞の候補に名を連ねました。

決して楽ではない暮らしの中で、繰り返し書かれた故郷への思い、家族への思慕。方言をそのまま綴った優しい文章。郷愁の作家と呼ばれる所以です。

古木作品はそのほとんどが作家仲間や家族により彼の死後刊行されたのです。

